



本年も「山の杜 学舎」をよろしくお願いします。

皆さん、はじめまして。私は森林文化アカデミーを2期生で卒業し、関市内の林業・製材の会社に勤めて3年目になります。

近くの山を見渡せば、木はいっぱいあります。木材の価格も、スギばかりでなくヒノキまでもが外材より安くなってきました。外材より国産材を求める消費者の声も多くあります。にもかかわらず、国産材は売れずに、外材が需要の80%を占めています。どう考えてもおかしな構図です。その原因追及はと



西川 智基
(山の杜学舎 理事)

林業コンサルタント活動への取り組み

は植えられたままで、手入れされずに放置され、荒れるに任せているわけです。そんな荒れた山も手入れをしてやれば、見違えるほど美しい、気持ちのいい山になります。そしてまた、化学薬品づけの外材ではなく、無垢のスギやヒノキのよさを知って、使ってほしい(ちなみに私は今住んでいるアパートのクッションフロアの上にヒノキの板を敷きつめており、とても快適に過ごしております)。話はそれでしたが、そんな思いからアカデミー卒業後、山仕事、製材所の仕事と同時に、林業コンサルティング活動を始めました。とはいえ、私には所有する山が全くないので、山主さんへの営業活動から始め、一年間の営業活動の末、数人の山主さんから合わせて約100畧の山林を任せてもらえることになりました。県庁へ何度か足を運び、借りてきた森林簿や森林計画図(個人情報保護法施行以来、簡単には見せてもらえません)、そして登記簿や山主さんの家のタンスの奥から出てきた明治時代の和紙に書かれた境界の資料…などをもとに、まずは山を歩いて回りました。しかし、森林簿、登記簿、現地の三つがすべて合わないところも多く(よくあることですが)、はつきり境界がわかりません。ですが山主さんから紹介してもらった、昔、その地域で山仕事をしていた80歳くらいのおじいさんに山を案内して頂き、何とか境界を知ることができました。その後、社長と何度か山を歩いて回り、間伐が必要で、その間伐材を架線

そまっぷ



第 10 号

NPO 法人 山の杜 学舎

〒501-3781 美濃市片知 1109-4
森づくり片知支援センター内

TEL&FAX 0575-37-2115

URL: <http://www.somanomori.or.jp/>
e-mail: info@somanomori.or.jp

(発行日: 平成 19 年 1 月 1 日)



あるいは作業道を入れて搬出できそうで、かつ間伐補助金を利用すれば、何とか採算が取れそうな場所をいくつか挙げました。そして100本を取りまとめて団地化し、施業計画書をつくりました。しかし私たちのような民間からの施業計画の樹立の事例が過去になかったのです。補助金申請のためには、民間での新たな予算枠の確保、市町村との長期委託契約、それらのための膨大な書類の作成：などの様々な壁を越えるのに一年以上かかりました。そして、営業活動から3年目にしてやっと今年度、100本のうちのわずか3本ですが、間伐と架線集材によるその間伐材の搬出の実施まで行うことができました。



「3年間の成果」
架線集材により伐出された間伐材

実施にあたつては、山を見て、間伐材を搬出して採算が取れるのか？切り捨て間伐にするか？の見極めが一番難しいところでした。せっかく長い間育てられた資源を切り捨ててしまうのはもったいないので、補助金と合わせて何とか採算がとれそうな場所は、間伐材を搬出したいと考えています。毎年のように変わる複雑な補助金システムと現場とのギャップ、民間という立場での補助金システムへの介入の難しさなど、まだまだ順調にはいきませんが、今回の実績と経験をもとに、今後ともコンサルティング活動を進めていきたいと思っています。

また平成18年度からは、林野庁直轄の「新生産システム」という5力年間に渡る流通システムまで含めた林業再生、再編の全国規模のプロジェクトが始まりました。その他外材の違法伐採輸入規制、関税アップ、国民の環境意識の高まり：など、様々な国産材への追い風を力にして、現在の「どん底」状態から林業を再生する絶好のチャンスの時期であると思っています。

林業就業者リーダー養成研修に参加して

鈴木章

八月二十八日から十二月一日の約3ヶ月間（講習日数延べ六十二日間）の林業就業者リーダー養成研修に参加させていただきました。

この研修は、岐阜県林業労働力確保支援センターならびに岐阜県森林公社が主催するもので、一般にグリーンワーカー研修と言われる研修です。

この研修では林業架線作業主任者、集材機運転業務、移動式クレーン、フォークリフト、車両系建設機械運転、玉がけ作業、はい作業などの資格が取得できるとともに、関市上之保の実習林等で架線集材の架設・撤去ならびに集材機の運転、大径木の伐木作業などの実技講習を受けます。また、研修終了後には岐阜県林業作業士に認定されます。約三ヶ月間という長期に渡る研修ですが、今年は森林組合をはじめ事業体から6名の受講生が参加をしました。

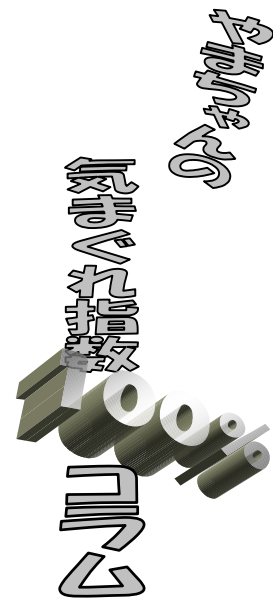
架線集材は6年前に半年間従事した経験がありましたが、今回改めて勉強させていただく機会に恵まれました。毎日新しい発見があり、新鮮で楽しい日々を送らせていただきました。講師の内橋良三先生や他の受講生との交流や情報交換もでき大変有意義な充実した講習となりました。

さて、今回の研修はリーダー養成研修ということでした。山仕事は3・4人程度の作業班を作って仕事をすることが多く、リーダーとはその作業班長を意味します。山の杜学舎でもスタッフ4人で現場作業をすることが多く、大抵の場合、私が作業班長を務めます。本来、作業班長は技術的にも熟練者が多く、現場作業者は、作業班長から現場の段取

りや作業技術を教わりながら一人前の林業技術者として仕事を覚えていきます。そういった意味からすれば私なんかは作業班長（リーダー）を務めるのはおこがましい話ですが、メンバーの中で数年だけ作業経験が多いということで、精一杯頑張っているしだいです。

山仕事は個人技が多いのですが、作業班はチームプレイです。お互いの得意な分野では活躍をしてみらい、未熟なところはバックアップしてもらう。ギブアンドテイクの世界です。作業班長はこれらを束ねていかなければならないとても大変な役回りです。さらに、山仕事は危険を伴う作業も多く、作業効率と安全性の確保に気をくばらなければなりません。全員ケガなく一日の作業が終えられることを毎日願っています。作業中何回か、自分のチェンソーを止めて、他のメンバーのチェンソー音を聞いて無事を確認します。長時間他のメンバーのチェンソー音が聞こえないときなどは、チェンソーの音が聞こえるとホッとします。こんなわけで、リーダーにはとても向いてない私ですが、それでも結構気は使っています（そうは見えないらしい）。皆さん大目に見てやってください。

リーダーに必要なものは、心のゆとりだと思っています。リーダーにゆとりが無いと作業に無理が生じます。ゆとりを生むのは作業技術と仕事の段取りと寛容な心です。まだまだ、修行が足りません。私。



今、そこに迫りつつある危機 〜地球温暖化〜

2007年、また新たな年の幕明けを迎えました。この冬は本格的寒さとなるのが、例年より遅かった感じがします。（前年の冬は十二月に入った頃、ドカッと雪が降り、いきなり寒さに見舞われました。）十二月なのに、間伐で山の中を動き回っていると、汗だくになった日も少なからず、ありました。この冬の気候の状況をみてみると、どうしても地球温暖化の影響が出始めているのではないかと思わずにはいられません。

一年程前、テレビのNHKスペシャルで、その地球温暖化を取り上げた番組が放送されていました。そしてその番組の内容にかなり衝撃を受けた事だと思ひ出されます。（見られた方もおられると思いますが、これを見た何人かの友人達も衝撃を受けてい

ました。）この番組を始めとして、昨年はテレビで地球温暖化をテーマにした番組を度々目にした気がします。それだけ地球温暖化が待たなしの状況にきているといえるのではないのでしょうか。

その衝撃的番組では、まず国家プロジェクトとして取り組まれているスーパーコンピューターによる地球シミュレーター、つまり今後百年間の気候変化を予測、仮想地球にて表現したものを紹介していました。地球シミュレーターの計算によると、先進国全てが京都議定書の二酸化炭素5%削減に取り組んだ上、エネルギーを効率的に使うという条件下の場合でも百年後の世界の平均気温は現在よりも、4.2度上昇するそうです。

その結果、どのような事になるのか、地球シミュレーター及び色々な研究者の予測によれば、非常に恐ろしい事態が待ち受けているようです。例えば日本では冬がほぼ無くなり、五月〜十月まで夏が続き、真夏日が百日にもなるそうです。夏には世界的に熱波が人間を襲い、気候の変化でデング出血熱やマラリアといった熱帯性感染症にかかる地域が拡大します。気候の変化は異常気象の増加ももたらします。豪雨の頻度が増え、巨大で勢力の強い熱帯性低気圧が襲って来るようになります。実際、地球シミュレーターでは仮想地球の中で百年後の日本に一年前アメリカを襲ったカトリナ級の台風が上陸していました。豪雨に見舞われる地域が出る一方で、

雨に恵まれず、乾燥が進み、砂漠化が起る地域も出るそうです。信じられますか？百年後にはあのアマゾンの熱帯雨林が砂漠化してしまうのです！あれだけ広大な熱帯林が無くなったら、考えるだけで恐ろしい事です。この砂漠化は世界的な食料不足をもたらします。温暖化によって穀物が増産する所もありますが、世界全体では減産となり、価格は20%上昇するだろうと予測されています。また、これまでよく言われてきたことです、温暖化によって極地の氷が融け、海面の上昇が起ります。最新の予測では2040年には北極の氷が無くなる可能性があると事です。この海面上昇により土地の侵食が進み、あまつさえ国そのものが無くなる所も出てきます。土地を追われた人達は環境難民となり、地域紛争が多発するだろうと警告しています。まだまだ他にも影響は考えられますが、一つの現象が次々に悪循環を生んでいくというのが地球温暖化の恐ろしいところだと思います。

ここ何年かの異常気候・気象をみると、もう影響が出ているように感じざるを得ません。(そのうち異常気候・気象が異常ではなくなり、異常気候・気象である状況が例年通りとか平年並みといわれる時代がやってくるかもしれません。)やはりメディアの取り上げ方からも今すぐに全人類が温暖化対策に取り組まないといけないのではないかと感じます。自分達の時代に便利さ、快適さを享受して、子供、

孫、さらにその先の世代の時代はどうなろうと知らんとは誰も思わないでしょう。一人一人が取り組める事、企業や国家が取り組める事、色々あると思います。エネルギーの無駄遣いをやめる、省エネ製品を使う、自然エネルギーを使う等等、温暖化対策はいくらでもあります。年明けから暗い話題を提供してしまいましたが、新たな年明けだからこそ、皆で地球温暖化がもたらす影響を知り、できることからでも取り組んでいってもらえればと思い、あえて書かせてもらいました。

(山中 亘)



北極海の氷は無くなって
しまうのでしょうか？

(写真はロイター/Fish and Wildlife Service
Alaska Image Library)

「昔は良かった」とは必ず釣り談義は
もうやめるべきだと思ふのですが。

渓流釣りの視点で年間を通して片知川の遡行調査(といっても10日ほどフライロッド片手に釣りを楽しむだけ)の結果は「一日に2尾18cm迄のアマゴとイワナが出る川」となりました。「川に魚がいるか?」「山は魚を育むか?」という観点での流程約12kmを上中下と三分した日和見釣行で、六月に約20cmのアマゴ、梅雨時に約15cmのイワナ7尾を含む9尾の日もありましたが、この時期をピークに1尾に出会うのが難しい、数字は偶発的なものですがこの傾向は多くの川と同様です。

釣人としての5段階評価は1、しかし里川的な下流から巨岩帯の中流に続き、上流は源流域の雰囲気ある溪を遡行する時3の評価、仮に「魚の数と質が維持」され「アケサの良さ」を考慮した時5の評価となります。

お盆に、ふくべの森でキャンプをしていた人の話です「20年以上来ていて以前はもつと森の中央まで入っていた」そして



かやの滝の下流で出たアマゴ



フラットで川幅があり石の入った理想的な溪相
しかし左側の圧倒的スギ、ヒノキ林は残念。

「いい溪だね、その頃は20尾ぐらい釣れた」
そうです。また最上流部で出会った高賀神社から
帰りの老夫婦から川で冷やしたトマトを勧められ
「イワナは知らんがアマゴはよく釣った、今はやらん
が」という話、一度同行した弟の「結婚した頃来た
けど人が多かったな」という記憶まで呼覚ますにい
たり「昔は良かった」、逆に今はあまり魅力がない片
知溪谷像が浮かび上がってきました。

「魚がいる川か?」には「少なすぎる。」「魚を育む
山か?」には「貧弱すぎる。」「という独断的診断を下
しましたが、再生計画をたてる時に負の要因を知る
ことは重要と考え、特記すべき項目をあげておしま
す。



水源地/ヒノキ人工林で下層植生もまばら
梅雨の合間もわずかな水たまりしかない。

- 金門橋より下流は工場排水により溪魚の生息はほぼ不可能
- スギやヒノキの占有率が高く溪畔林の機能不足
- 結果として水生および陸生昆虫が少ない。
- ふくべの森、を親水空間として
- 手入れ不足で暗く景観を損なっている
- 安全確保の面で問題箇所がある、少なくとも人に優しく楽しい場を提供しているとは言い難い。

あとは蛇足、これまで通年の調査釣行を2

箇所でもやりましたが初めて山を意識した今回、溪畔林の貧弱さを再認識するとともに何処でも何度でも耳にした「30年くらい前は…」という川を取り巻く数字が木材価格の転換時と符合する、興味深い発見に自分の人生を重ね合わせている今日の頃です。

(栃川 孝弘)

【活動報告】二〇〇六年（春・秋）

今期は出材作業を初めて実施しました。今後活動の幅を広げたいと考えています。

● 民有林スギ林伐出（下呂市）「5月」

下呂市のーさんからの依頼で、隣家との境にあるスギ林が、隣家を日陰にすること、伐採を頼まれました。下呂市の久野川沿いの静かな集落ですが、依頼者のお宅にはおばあさんが1人で暮らしており、週末には息子さん夫婦が愛知県から戻ってきています。今回は、息子さん夫婦が私たちの活動を新聞で知り、相談されてきたことがきっかけで仕事することになりました。

作業は、小型集材ウインチ（ひつぱりだ）この作業試験も兼ねて、仕事の合間の週末を利用して作業をしました。前年の秋から伐採に入り、葉枯らしを



集材ウインチ(ひっぱりだこ)で集材作業をしました。

して、春に出材という長い期間の作業になりましたが、スギ丸太を10.32立方m(4t車で2はい)出材をし、隣家の日当たりもよくなり、お隣さんに気兼ねなく暮らしていただける環境となりました。

民家に隣接する人工林が、日照や風雪害による倒木など、様々な問題を引き起こしている現実を垣間見た現場でした。せつかく植えたスギやヒノキの人工林がやつかいものになってしまっている姿は悲しいものです。

●以安寺山整備事業(美濃市)「通年」

美濃市の以安寺山森林景観形成整備工事の二年目の作業を行っています。今年度は、周回歩道の開設と広葉樹林、西側のヒノキ林の整備を実施しています。



広葉樹エリアの整備中

●大矢田もみじ谷森林景観整備事業(美濃市)

美濃市の紅葉の名所である大矢田神社周辺の景

「十月」



大矢田神社 もみじ祭りには県内外から多くの観光客が訪れます。

観整備を実施しました。大矢田神社は、周辺の地域住民を氏子とする歴史ある神社であり、背後の谷筋(楓谷IIモミジ谷)が天然モミジの生育地として国指定の天然記念物になっています。昨年、大矢田神社周辺の景観に関する調査を実施しましたので、それに基づいて整備を行いました。

整備内容は、神社参道周辺の森林整備と参道脇の遊歩道の再整備(ずっと荒れ放題で閉鎖状態になっていた)を中心に実施しました。

今回の整備事業にあたって、神社の宮司さんや地域の氏子さんに説明会を開きましたが、大矢田のモミジ谷を地域の象徴・財産として良好な状態で次世代へ継承する強い意志を感じました。今後、モミジ谷の景観を守っていく仕組みづくりを考えていかなければなりません。

●小倉公園遊歩道・森林整備事業（美濃市）

〔九月～十二月〕

国道156号沿いの美濃市曾代に「道の駅」の建設がはじまり、近隣の小倉公園に長良川側からアクセスできる遊歩道の整備を手掛けることになりました。



整備した歩道と案内看板



緑風荘の横から既設の遊歩道があるにはありましたが、倒木等で通行ができない状態であったり、周辺の森林も放置状態で一人で歩くには暗くて気

味の悪い状態でした。歩道周辺の倒木の処理や竹林の整備を実施し、伐採した木はチップパー機で歩道に散布しました。

また、案内看板も設置しました。

●蕨生地区 間伐説明会（美濃市）〔九月〕

今年度は蕨生（わらび）地区を間伐推進の重点地区として九月七日に間伐説明会を開きました。説明会には蕨生地区の森林所有者十二名が出席していただきました。

説明会では、杣の杜学舎の鈴木が間伐の必要性を事例写真をまじえながら説明し、中濃森林組合の長屋参事からは補助金などの説明をしていただきました。所有者の方も熱心に話を聞いてくださり、ほとんどの参加者が説明会をきっかけに所有林の間伐を実施する方向で話が進んでいます。



蕨生地区
間伐説明会

幸い蕨生地区の森林は、林道佐倉線が開設されており、将来は木材を搬出して利用しやすい環境にあります。しかしながら、多くのヒノキ林が適切な間伐施設が行われておらず、危機的な状況の森林も多くあります。今なら再生できる人工林も多くあるので、手遅れにならないうちに多くの山の間伐を実施して行きたいと思っています。

●間伐事業（美濃市）〔通年〕

間伐説明会をきっかけに蕨生地区で十七名の所有者から合計19.5haの間伐依頼を受け、現在間伐施設を実施しています。



蕨生（わらび）地区で間伐を実施したヒノキ林

一所有者当りの平均面積が1.14haと小さい（飛び地で所有されている場合があるので実際にはもっと小さい。）ので、今回のように地区でまとめて

第1回(5/27)
小倉公園の森林整備



第2回(6/10)
人工林の混み具合調査



第3回(7月8日)チェンソー講習



第4回(9月9日) 伐倒講習



第5回(10月14日) 枝打ち講習

間伐すると少しでも作業効率を上げることができ
ます。
間伐補助金を使った保育間伐(いわゆる切捨て
間伐)は3割以上間伐すれば、補助金が支給され、
所有者の負担金無しで間伐が実施できますが、私
たちは独自に山を診断して、適切な密度になるよ
うに間伐率を決めています。
●**みの森林塾(美濃市)「五月〜九月に六回実施」**
みの森林塾も二年目を迎え、昨年同様二十名の
参加者とともに「素人にもできる山づくり」をめざ
して活動しました。参加者の半数が二年目の受講
とあって山を歩く姿も山師の後姿になってしまし
た。

三年間で、地域の森づくりリーダーを養成する
ことを目指して実施してきましたが、十一月に行わ
れた第六回森林塾の意見交換会の中で、みの森林
塾のOBが中心となった森づくりグループの結成の
決意表明がありました。
来年度は最後の年になりますが、このグループの
活動をふまえながら、より楽しくて、少しでも役に
立つ講座を考えています。



(鈴木草)

編集後記 西川さんに民間林業会社での、林
業再生への奮闘を寄稿してもらいました。私た
ちも負けず、それぞれの立場で今年も山への思
いを形にしていきます。



(小泉)

五平餅屋さん
登場。



やっぱり炭やきは楽しい。超高断
熱ドラム缶窯です。

第6回(11月25日)
炭やき講習
&意見交換会



意見交換会

